

土地家屋調査士試験

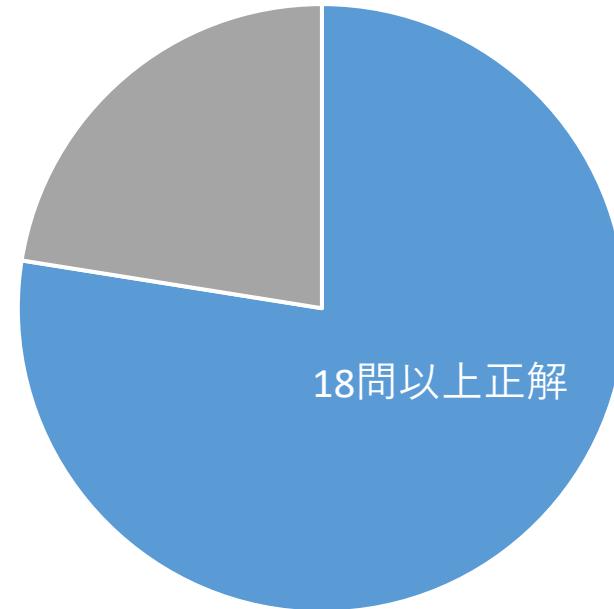
択一式過去問解説講座ガイダンス
～「合格するための過去問学習法」～



- 20問という比較的少ない出題数
 - 1問の重みがある
- 出題にムラがある
 - 民法は総則・物権・相続
 - 不登法にも頻出論点が存在
- 択一と記述式を併せて 2 時間半で解く
 - 択一を早く終わらせるほど、記述式に時間が使える
- 択一と記述式は同じ不動産登記法
 - 択一知識がそのまま記述式で出題

- 20問という比較的少ない出題数
 - 1問の重みがある → すべての肢を理解
- 出題にムラがある
 - 民法は総則・物権・相続
 - 不登法にも頻出論点が存在] 年度別に解く
- 択一と記述式を併せて 2 時間半で解く
 - 択一を早く終わらせるほど、記述式に時間が使える → ペースを意識
- 択一と記述式は同じ不動産登記法
 - 択一知識がそのまま記述式で出題
 - 記述式でどう問われるか？を考える

- 直近の合格者の約75%が択一を18問以上正解している
- 18問から19問取ると、記述式の基準点で合格点に届く



「択一式過去問解説講座」の5つの特徴



- ① テキストも解説も年度別に収録
- ② すべての問題を約4分の短いチャプターで収録
- ③ 現行出題形式となってからの、すべての過去問のすべての肢を解説
- ④ 早く正確に解くための考え方
- ⑤ 記述式問題へつなぐ実践的な解説

テキストも解説も**年度別**に収録

- 20問を1セットにして学習しやすく
- ペースの把握
- 全体知識の維持
- 分野ごとの索引も収録

約4分の短いチャプターで収録

- ・見たいときにその問題の講義だけを視聴
- ・手間がなく、効率がよい
- ・見る回数も増える

すべての過去問のすべての肢を解説

- 繰り返し出題される論点についても、省略せずに解説
- 重要度を意識しなくても、結果的にバランスの良い学習ができる

早く正確に解くための考え方

- 早く解くための実践的な答えの出し方
- 周辺論点も含めた正確な解説

記述式問題へつなぐ実践的な解説

- 記述式を解くために必要な知識は択一知識で充分
- 「記述式問題にどう活かされるのか」まで、一步踏み込む